

No. (51) 平成30年度 地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業成果報告書

事業名称	京都を中心とした人文系総合エコミュージアムの開発プロジェクト		
実行委員会	京都歴史文化施設クラスター実行委員会		
中核館	京都文化博物館		
	住所	〒604-8183	
	TEL	075-222-0888	FAX 075-222-0889
	ホームページ	http://www.bunpaku.or.jp	
構成団体	姉小路界限を考える会、公益財団法人京都古文化保存協会、京都市学校歴史博物館、京都市考古資料館、京都市歴史資料館、京都文化博物館、京の三条まちづくり協議会、京都府、一般社団法人千總文化研究所		
事業開始時点の課題分析	<p>京都は、魅力的な観光地として世界的に知名度が高く、国内旅行者にとどまらず、大勢の外国人旅行者が訪問している。しかし、これらの旅行者は、京都各地の魅力を多面的に経験するのではなく、限られたスポットに集中し、ステレオタイプな京都の需要にとどまる傾向がある。</p> <p>このことは、一部の限られた名所・文化施設を集中的に利用することと同義であり、また、限られた文化資源の利用過多を招いている。さらに、これらの現場では周辺環境の悪化等、様々な面で矛盾を抱えている現状がある。今後、ICOM 京都大会や、東京オリンピックにあわせた文化事業が予定される京都では、さらに多くの来訪者、新住民を受け入れていかなければならない。</p> <p>この京都が抱える矛盾は、京都に暮らす人々にとって切実な課題であるとともに、ローマやロンドンなど歴史文化都市が共通して抱える問題でもあろう。京都の文化資源を維持・活用しながら、京都住民が静穏な暮らしを営む方法を生み出さねばならない段階に至っている。</p> <p>京都に暮らす人々にとって、いかなる都市環境が理想なのか。またそれを実現するためには、いかなる議論をおこない、問題解決に向けた手法を案出すればよいのか。このような諸点を本プロジェクトが取り組む課題としたい。</p>		
事業目的	<p>上記の課題を打破していくためには、現在散発的に行われている各文化施設(資料館、博物館、美術館等)や地域組織を糾合し、クラスター化する必要があると考える。その上で、今はまだ確認されていない、魅力的な歴史的・文化的資源を発掘し、その成果を地域住民とともに学び合うことがなにより必要だと考える。そしてそこで交わされた議論の中から、文化資源にひそむストーリーを抽出し、観光資源として磨き上げ、提示していくことが必要である。このとき、最新のメディアや技術を積極的に駆使し、今までにない文化資源の活用方法を切り拓いていきたい。</p> <p>これらが十全に果たされれば、未だ着目されていない資料(作品)・名所・景観などの文化遺産に光を当てることにつながり、観光資源となりうる遺産群の母集団を飛躍的に増大させる可能性が見込まれる。そして、それらの可能性は、住民の中に自らの地域に対する愛着心や誇りを芽生えさせ、これらの文化資源を継承・活用する人材育成にもつながろう。地域住民と近隣の文化施設が協働し、あらたな魅力を見つけ、外国人、障害者を含むあらゆる人々に発信していくことを目的としたい。</p>		

事業概要	<p>上記の目的の完遂に向けて、以下の内容の事業を展開したい。</p> <p>①地域事業（地域祭礼など）を協働して運営し、また地域の課題をともに議論し、解決の方策を検討する地域と文化施設の学びの場（まちカフェ）を持つ。</p> <p>②①での成果を可視化し、国内外を問わずあらゆる人々に発信していく。</p> <p>これらのプロジェクトで獲得された諸資源は、適切に外国語のキャプションを付し、また外国語を駆使するアテンダントを準備し、国内にとどまらない国際的な発信力を持たせたい。</p>
区分	<p>(1) 地域文化の発信の核となる美術館・歴史博物館</p> <p>■ア 美術館・歴史博物館の情報発信，相互連携</p> <p>□イ ユニークメニューの促進</p> <p>■ウ 地域のグローバル化拠点としての美術館・歴史博物館</p> <p>■エ 地域に存する文化財を活用した地域共働の創造活動や地域の魅力の発掘・発信</p> <p>(2) あらゆる者が参加できるプログラム及び学校教育や地域の文化施設等との連携によるアウトリーチ活動</p> <p>■ア 小・中・高等学校と連携した地域文化の担い手の育成</p> <p>■イ 大学等と連携した国内外で活躍する文化人材育成プログラムの開発</p> <p>■ウ 社会人ほか多様な対象者のための学習講座の実施</p> <p>■エ 障がい者の芸術活動支援・鑑賞活動支援等の事業</p> <p>(3) 新たな機能を創造する美術館・歴史博物館</p> <p>■ア 観光・まちづくり・国際交流・福祉・教育・産業等他分野との連携・融合による活動</p> <p>■イ 文化財の新たな保存管理・活用手法の開発</p>
実施項目 ・ 実施体系	<p>1. 文化資源を活用した地域事業の実践</p> <p>(1) 研究会（まちカフェ）の実施</p> <p>①研究会（まちカフェ）の実施（まちカフェ）</p> <p>②文献調査（文献調査）</p> <p>(2) 地域事業の実践</p> <p>①準備会（地域事業準備会）</p> <p>②地域事業実践のための文化資源発掘（地域事業文化資源）</p> <p>③催事の実践（地域事業実践）</p> <p>④事業成果振り返り検討会議（地域事業検討会）</p> <p>(3) 地域の文化資源（近代建築群）の保全継承ネットワークの取り組み</p> <p>①準備会（近代建築準備会）</p> <p>②三条まるごとミュージアムの取り組み（まるごとミュージアム）</p> <p>③事業成果振り返り検討会議（近代建築検討会）</p> <p>2. あらゆる人々が参加できるプログラムの開発事業</p> <p>①準備会（プログラム開発準備会）</p> <p>②外国語に対応した人材育成プログラムの開発（外国語プログラム開発）</p> <p>③障害者に対応した教材開発プログラム（障害者プログラム開発）</p> <p>④文化に通じた人材育成事業の開発プログラム（人材育成開発）</p> <p>⑤事業成果振り返り検討会議（プログラム検討会）</p>

	<p>3. ICOM を見据えた地域グローバル拠点形成事業</p> <p>①準備会 (ICOM 準備会)</p> <p>②国際発信プラットフォームの開発と試行 (ICOM 開発)</p> <p>③有効な国際発信を検討するフォーラムの開催 (ICOM フォーラム)</p> <p>④事業成果振り返り検討会議 (ICOM 検討会)</p>
<p>実施後の 成果・効果等</p>	<p>本事業は「1 文化資源を活用した地域事業の実践」、「あらゆる人々が参加できるプログラムの開発事業」、「3 ICOM を見据えた地域グローバル拠点形成事業」の3つの柱を持つ。</p> <p>1では新出の文化資源を発掘し、またそれを評価し、構成員と地域住民との間で価値の共有をはかることを目的とした。本事業の中で博物館、美術館、あるいは寺社仏閣などではなく、通常最も調査を入れにくいとされる企業の持つ文化資源にアクセスできたのは極めて重要な成果であったと考える。また地域住民が主導する形で独自に近代洋風建築をめぐるイベントを企画・実践するなど、学芸員や研究者などでなく生活者の視点で文化資源の利用が進められたことも大きな成果である。参加者からも次年度以降、同様の取り組みを求める声が多数あがった。</p> <p>また2では、1で価値づけられた地域の文化資源を、さらに広範に普及することを目的とし、外国人対応、バリアフリー (ユニバーサルデザイン) 対応に力を入れた。前者では近年の文化財の高度活用を求める議論と平行な形で進行する文化財修復に関する成果を翻訳して公開できたことは、文化財業界に留まらない大きなインパクトを与えることにつながるものと考えられる。また後者では、視覚・聴覚のハンディキャップ対応にとどまらず、京都の歴史に関する講演会を永続的なメディアである映像記録として残せたことは、今後、この分野をより大きく展開していくための基礎的な作業となったものと考えられる。事業終了後さっそく府内の盲聾学校から問い合わせをいただくなど、京都府内における普及も進んでいる。良好な成果と課題を明確にしつつ、さらに活用していく道を探っていきたい。</p> <p>さらに3では、1および2で挙げられた成果を国際的に発信するため外部 SNS サイトでの発信、および年度中に行なった多くの事業の成果公開を目的としたシンポジウムを開催した。後者は ICOM 本部の担当職員とも協働し、クラスター構成員の全てが参加した。準備会を含め綿密に議論を進める中で、構成員相互が抱える課題が明確化され、2019 年度に迫る ICOM を見据える上でこの上ない機会となった。</p> <p>今年度の最も重要な目的な、京都市内近隣地域の歴史文化施設が協働する中で共通の課題、あるいは目標を共有し、ゆるやかなミュージアム連合を目指すところにあった。初年度にあたる今年度は、連絡先の共有、研究会の発足、SNS の整備、年度末シンポジウムでの成果など、極めて良好な成果が果たされたものと考えられる。</p> <p>参照 https://www.facebook.com/京都歴史文化施設クラスター実行委員会-Explore-Kyoto-in-History-383937882344681/</p>